

令和6年度豊かな森を育てる府民税 事業成果及び評価結果

令和7年 10月
京都府農林水産部林業振興課

目次

1. 令和6年度豊かな森を育てる府民税評価結果	2
2. 令和6年度豊かな森を育てる府民税事業成果	6
I 森林の整備及び保全	8
1 森林防災機能強化事業費	8
(1)地域とつくる安心・安全な森整備事業	8
(2)流木等流出防止対策事業	8
(3)山地災害防止対策事業	8
(4)京の木づかい施設整備事業	8
2 豊かな森づくり総合対策事業費	12
(1)次世代につなぐ森づくり事業	12
(2)ふるさとの里山林保全活動推進事業	12
(3)京の森林文化を守り育てる支援事業	12
(4)豊かな森の恵み創造事業	12
II 森林資源の循環利用	17
1 ひろがる京の木整備事業	17
III 森林の重要性の啓発	20
1 豊かな森林継承事業	20
IV 地域振興計画推進事業費	23
V 豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業	28

1 令和6年度豊かな森を育てる府民税評価結果

京都府農林水産部林業振興課

京都府では、災害防止など森林の持つ多面的機能を維持するため、平成28年度から「京都府豊かな森を育てる府民税」(以下、府民税)を導入しており、第2期となる令和3年度から、毎年度、事業の進捗や効果を評価・検証しているところです。

この度、令和6年度の府民税事業についての評価にあたり、有識者会議を開催し、「府の事業評価の妥当性、改善点や要望、今後の展開」などについて意見をいただきました。

【有識者会議の評価結果について】

(1) 総括的な評価

<事業全体に対して>

- ・地域ニーズに応じて事業が実施されており、到達目標も概ね達成していることから、府の自己評価は妥当である。
- ・府民税の必要性に対する理解が深まるよう、森林が持つ多様な機能や資源の循環利用の重要性など、府民に対し解りやすい方法で普及啓発していくことが必要である。

<各事業に対して>

- ・地域ニーズに沿って実施している危険木の除去などの防災対策は、流木災害の未然防止に繋がる効果的な取組として評価できる。
- ・局地的な豪雨が頻発する中、森林が持つ多面的機能を向上させるため、継続的な森林の整備及び保全を進めていくことが必要である。
- ・主伐・再造林の促進にあたっては、森林の境界を明確にすることが重要であり、林業事業体などに対し、林相界等の森林関連情報の共有を図ることが必要である。
- ・建築物に対する木造・木質化への支援は、森林資源の循環利用を進める上で重要な事業であり評価できる。
- ・府内産木材の利用を一層促進するためには、府民に対し森林資源の循環利用の重要性を啓発し、木材利用に対する意識をさらに醸成していくことが必要である。
- ・森林の重要性についての評価は、イベント等の参加者数に加えて、参加者にアンケートを実施するなど、森林に対する理解度を把握することが必要である。

(2) 府による事業評価と分野別の主な意見

【Ⅰ 森林の整備及び保全】

事業評価	有識者会議の主な意見
○ 流木等の原因となる危険木を集中的に撤去するとともに、風倒木跡地の整理・植栽等を行い、森林の防災機能の向上に繋げることができた。 ○ 事業の実施に当たっては、地域住民等に事業内容について周知し、防災対策が必要な箇所を聞き取ることで、危険箇所の把握に努めた。 ○ 地域住民による人家近くの危険木の現地調査や撤去の計画・実行を支援するとともに、防災意識の向上を図った。 ○ 森林所有者や林業事業体に対し再造林の必要性を周知したことにより、一定の理解が進み、再造林面積と花粉症対策苗木の生産量は昨年度より増加したものの、主伐面積が増えず、再造林の目標を達成できなかったことから、目標の達成に向け、主伐と再造林を一層促進していく必要がある。	○ 地域ニーズに沿って実施している危険木の除去などの防災対策は、流木災害の未然防止に繋がる効果的な取組として評価できる。 ○ 近年の異常気象を踏まえると、森林の防災機能を高めていくのは効果的である。 ○ 局地的な豪雨が頻発する中、森林が持つ多面的機能を向上させるため、継続的な森林の整備及び保全を進めていくことが必要である。 ○ 災害対応は不確実性が高いため、目標値に囚われず、柔軟に対応していただきたい。 ○ 里山林整備は、環境教育の場、獣害対策、景観保全、防災対策を含めているので、同時に様々な公益的機能の増進に寄与していることを評価したい。 ○ 主伐・再造林の促進にあたっては、森林の境界を明確にすることが重要であり、林業事業体などに対し、林相界等の森林関連情報の共有を図ることが必要である。 ○ 主伐・再造林を進めるため、森林環境譲与税などを活用し、団地を集約化し、施業を計画的に実施していることを踏まえて、事業を展開されたい。 ○ 里山林の整備により、バッファゾーンが整備され、獣害対策に寄与していると考ええる。 ○ 広く府民が享受する森林の機能を発揮させる府民税は、林業適地への集中投資ではなく、全域の保全となるようしていただきたい。

【Ⅱ 森林資源の循環利用】

事業評価	有識者会議の主な意見
○ 住宅・民間施設等の木造・木質化、府民が利用する施設への木製品の導入に対する支援に併せて、木材利用の優良事例の表彰やパンフレット・HP等による広報を積極的に行うことで、府民が京都の木を身近に感じる機会を創出することができた。	○ 建築物に対する木造・木質化への支援は、森林資源の循環利用を進める上で重要な事業であり評価できる。 ○ 府内産木材の利用を一層促進するためには、府民に対し森林資源の循環利用の重要性を啓発し、木材利用に対する意識をさらに醸成していくことが必要である。

【Ⅲ 森林の重要性の啓発】

事業評価	有識者会議の主な意見
○ 森林環境学習や木材を活用したワークショップを開催するとともに、商業施設への展示なども活用し、府民が森林の重要性を体感する機会を創出することができた。また、関係機関と連携したイベントのPRにより、昨年度よりも多くの参加者を確保することができた。	○ 森林の重要性についての評価は、イベント等の参加者数に加えて、参加者にアンケートを実施するなど、森林に対する理解度を把握することが必要である。

【Ⅳ 広域振興局枠】

事業評価	有識者会議の主な意見
○ 振興局が地域の特色やニーズに応じた、森林保全や木材利用等の啓発事業を実施した。	○ 地域ニーズに応じて実施されており、評価できる。 ○ 森林環境譲与税と重複がないよう本庁と公所で連携を図りながら、実施することが必要である。

【Ⅴ 市町村交付金】

事業評価	有識者会議の主な意見
○ 国や府が実施する事業の対象外となっている放置された里山林や竹林において、地域のニーズに応じた ○ 森林整備、保全活動を進めることができた。 公共施設を中心に木製品導入、木質化が実施され、 ○ 府内産木材の利用促進に繋がった。 木育イベントや森林環境学習を通じた普及啓発の取 ○ 組により、森林の多様な機能の重要性について府民の理解を進めることができた。 集落に隣接する里山林における危険木の除去など、 ○ 地域のニーズに応じたきめ細やかな対策を実施した。	○ 府民に一目でわかるよう、事業効果がわかりやすい写真を掲載するなどPRを工夫されたい

(3) 指標と目標達成率

使途分野	指標	R6年度 実績値／目標値	R6年度 達成率	R6年度までの実績値 ／5年間(R3-R7)の目標値
Ⅰ 森林の整備及び 保全	1-①山地災害危険地区の整備	28箇所／20箇所	140%	146箇所／100箇所
	1-②溪流における災害の未然防止	31箇所／20箇所	155%	160箇所／100箇所 ※内、山地災害危険地区（130箇所）
	1-③災害防止のための森林整備	185ha／200ha	93%	845ha／1000ha ※効果が発揮される流域面積
	2-①再造林への補助実績	70ha／103ha ※	68%	232ha／445ha ※内、府民税実績（22ha）
	2-②花粉症対策苗木の生産量	8.5万本／8.5万本	100%	16.6万本／31.5万本 ※R4年度から苗木生産を開始
	2-③里山林の整備	47箇所／60箇所	78%	216箇所／300箇所
	2-④里山学習の実施	3箇所(3箇所) ※()はR5実績		
	2-⑤地域文化と関わる社寺の森等の整備	32箇所／30箇所	107%	154箇所／150箇所
Ⅱ 資源の循環利用	①府民が京都の木を身近に感じる環境づくり	●建物型 住宅タイプ 120件 1,619㎡ 非住宅タイプ 12件 344㎡ 優良事例表彰・パンフレット・HP作成など ●木製品型 導入支援タイプ 45件(42件) ※()はR5実績の1次募集での件数		
Ⅲ 森林の重要性の啓発	①森林の多様な機能についての府民理解の促進（イベント参加者）	845人／600人	140%	2,587人／3000人

【参考 有識者会議について】

(1) 有識者会議の開催 令和7年8月26日

(2) 有識者会議のメンバー

氏 名	分 野	役 職 等	
あいこう まさとし 愛甲 政利	木材利用	(一社)京都府木材組合連合会 副会長	
かわかつ たけし 川勝 健志	学識経験者 (税制)	京都府立大学公共政策学部 教授	
くりやま こういち 栗山 浩一	学識経験者 (環境経済)	京都大学大学院農学研究科 教授	(座長)
しのべ ゆきお 篠部 幸雄	府民協働	京都森林インストラクター会 会長	
ながしま けいこ 長島 啓子	学識経験者 (森林計画)	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 教授	
みよし いわお 三好 岩生	学識経験者 (防災関係)	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授	
もりい かずひこ 森井 一彦	森林組合	京都府森林組合連合会 代表理事専務	

(五十音順・敬称略)

2 令和6年度豊かな森を育てる府民税 事業成果

分野	事業名等	指標
I 森林の整備 及び保全	1 森林防災機能強化事業費	①山地災害危険地区の整備 ②溪流における災害の未然防止 ③災害防止のための森林整備
	(1) 地域とつくる安心・安全な森林整備事業	
	(2) 流木等流出防止対策事業	
	(3) 山地災害防止対策事業	
	(4) 京の木づかい施設整備事業	
	2 豊かな森づくり総合対策事業費	①再造林への補助実績 ②花粉症対策苗木の生産量 ③里山林整備 ④里山学習の実施 ⑤地域文化と関わる社寺の森等の整備
	(1) 次世代につなぐ森づくり事業	
	(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業	
	(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業	
	(4) 豊かな森の恵み創造事業	
II 森林資源の 循環利用	ひろがる京の木整備事業	—
III 森林の 重要性の啓発	豊かな森林継承事業	森林の多様な機能についての府民理解の促進
IV	地域振興計画推進事業費	—
V	豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業	—
	実績写真	

【事業実績額内訳】

分野	事業名等	実績額（千円）
Ⅰ 森林の整備及び保全	1 森林防災機能強化事業費	298,000
	(1) 地域とつくる安心・安全な森林整備事業	13,902
	(2) 流木等流出防止対策事業	41,151
	(3) 山地災害防止対策事業	183,000
	(4) 京の木づかい施設整備事業	56,926
	2 豊かな森づくり総合対策事業費	84,169
	(1) 次世代につなぐ森づくり事業	26,485
	(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業	25,120
	(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業	28,000
	(4) 豊かな森の恵み創造事業	4,564
計		382,169
Ⅱ 森林資源の循環利用	ひろがる京の木整備事業	80,450
Ⅲ 森林の重要性の啓発	豊かな森林継承事業	14,000
Ⅳ 広域振興局枠	地域振興計画推進事業費	9,233
Ⅴ 市町村交付金	豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業	199,988
計（当初予算額711,000千円）		685,840

※端数処理の関係で各事業の実績額の計と合計が一致しない場合があります

※本実績額は、事務費等を含むため、各事業ページの事業成果の事業費とは一致しません